



袋宮寺(昭43)

## 袋宮寺

県立弘前高校と境を接する天台宗袋宮寺は、もと樋ノ口村にあった藩の祈願所熊野三所権現の別当寺院で、津軽天台四山の一つにつらなっていた。明治初年の神仏分離で、報恩寺境内の観音堂(無量院)に移転し、のち報恩寺から独立して、袋宮寺を名乗って今日に

至る。

袋宮寺本尊の十一面観音像は、別称を背高観音といい、総高6.15mの巨像。4代信政時代につくられたもので、用材は城内にあったヒバの老木、作者は上方か江戸の仏師だろうという。